

Fun for Life

vol. 6

ピーアーク コーポレートブック

特集：

PARK FACTORY TOUR

ハートのファクトリーツアー

対談：

認定NPO法人「スペシャルオリンピックス日本」名誉会長

細川 佳代子氏

Fun for Life

「パチンコを、その先へ。」

ビーパークの起点には、1枚の写真があります。
遠かきかのぼること60年、
街の小さな靴屋の写真です。

広さはたった15坪。
ミカン箱が陳列棚の代わりでした。
商品をいっぱい積み上げて、自慢げな店主。
モノを売って喜ばれる商いを基本に、
地域に愛される店づくりを目指しました。

入学式で初めて履いたピカピカの上履き、
運動会のリレーで一等賞をとれた運動靴、
楽しみで、前の日は眠れなかった遠足に
履いていった新しい靴、
商品を通じた思いを絆に、たくさんのお客様から
「ありがとう」をいただけてまいりました。

商いの喜びを糧に、
地域とのリレーションを育てる商売を積み上げ、
お客様との絆の先のビジネスとして、
小さな靴屋がパチンコホールへと転身、
「感謝の気持ち」をDNAに受け継いで、
ビーパークは誕生しました。

新調 修理
タツミ靴店

創業者の庄司定男氏が、東京都台東区谷中に辰巳屋靴店を
開業したのは昭和26年5月。同時に地元商店街をまとめて、
協和サーブیس専門店会を結成。当時としては珍しかった
チケット販売をはじめた。

時代が、昭和から平成へと移り、
そのスタイルが手打ち式から電動式へ、
チューリップからデジタルへと、
どんなに劇的に変化しても、
パチンコの遊びの本質と醍醐味は、
今も昔も変わることなく、
身近で手軽な楽しさと、お客様の笑顔と共にありました。

そして今、明日への元気を、活力ある日本の礎も、
私たちエンターテインメント産業こそが担うべき
ミッションと確信いたします。

今までも、そしてこれからも。
ビーパークは、
お客様の「笑顔」と「ありがとう」のために
進化し続けます。

Fun for Life
「パチンコを、その先へ。」

おかげさまで、ビーパークは創業60周年を迎えます。

PRIN

©2004 PARK HOLDINGS CO., LTD.



ビーパーク

検索

60年の思いを、「Fun for Lifeの翼」へ。

株主の皆様、お取引先の皆様、本年も一年間ご支援賜りまして誠にありがとうございました。

ピーアークの創業スピリッツである辰巳靴店の商いの始まりと私自身の年齢も、60の齢を数え、新たなステージへ挑戦すべく、決意新たに年を重ねます。想像だになかった震災は、日本の歴史的な転換を促し、この悲劇から多くを学ぶことが復興の光となるでしょう。

被災地では多くの尊い命が失われました。この計り知れない悲しみの中でも希望を胸に、一歩ずつでも前に歩もうとする人間の精神の強さには、美しささえあります。その方々の気持ちを思えば、今私たちがすべきことは、慈しむ気持ちを持って寄り添い、それぞれの義援活動やボランティア活動を途切れることなく続けることでしょう。

今般、ピーアークのDNAにおいては、辰巳靴店として誕生した1951年から60年の時を越えて進化をして来た、商いの喜びと幾重にも折り重ねての気づきがありました。スタッフも何度か被災地への支援活動に参加をして、マスコットのピーくんを通じ、徐々に開いていく子供たちの笑顔と心の震えをじかに感じる事ができました。一人ひとりが、世の中を明るく楽しくしようとのミッション、クレドを噛み締めながら、人と人との絆、人と地域とのつながり、受け継がれていくふるさとへの思いの連鎖を感じて、一回り以上成長して帰って来てくれました。

いくつかの支援活動を通して、接する現地の方々の反応を生の情報として、私たちは持ち帰ることができました。翻って、「ピーアーク営業」においては、お客様の生の声を従来以上に活かし、One to Oneの顧客戦略のアプローチによるサービス提供とプロモーションなど、パーソナルシステムの特長との掛け合わせから導き出す、確固たる多くのFun商品を積み上げて参ります。

私たちピーアークは、いろいろな人々のさまざまな気持ちや思いを包摂し、世の中を楽しくするために、エネルギーを集約し、百年産業たらん「志」を抱いて、ブランドビジョン2020へと向かい「Fun for Lifeの翼」でさらに力強く羽ばたいて参ります。

まもなく迎える辰年の新年も、あたたかいご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ピーアークホールディングス株式会社 代表取締役社長 庄司 正英

特集

ハートの
ファクトリー
ツアー

PARK Factory Tour

新しいテレビCMは「ピーくん」が
登場する色合い豊かなアニメーション。
今回の特集では、本作品の
一コマ一コマに込めた大切な想いを、
分かりやすくご説明いたします。



工場見学の
はじまりです!

CMに登場するハートの製造工場「ピーアークファクトリー」。「私たちのシゴトは、楽しさをお届けすること」のキャッチフレーズのように、ここでは今日も、皆様に楽しさをお届けするため、ピーくんと仲間たちが一生懸命働いています。

私たちが届けたい「楽しさ」、CMではそれをハートで表現いたしました。が、今号では、「ピーアークファクトリーツアー」と題し、ピーアークが最も大切にしたい、このハートに込めた想いをご紹介します。

お客様の声をカタチに。
ピーアークが大切にしていること。

ピーアークには、毎日たくさんのお客様がいらつしやいます。そして、たくさんのご意見がカスタマーセンターに寄せられます。これらは、ピーアークに少なからず関心をもっているからこそ頂ける貴重なご意見です。

カスタマーセンターが04年に始まってから頂いたご意見の登録累計数はなんと「24,000件」にのぼります。そのうち、お叱りやクレームなどのご不満は約11,000件、お褒めの言葉も約1,200件頂きました。全てのご意見が、私たちにあっては宝物です。時には、良かれと思っ

カスタマーセンター お客様の声

2004年スタートから

登録累計数
24,000件

お礼

ご感想

お叱り

お褒めの言葉

クレーム

お褒めの言葉
約1,200件

お叱りや
クレームなどの
ご不満
約11,000件

ハートの原料は
もしかして
お客様の声なの？

店舗での取り組み



お客様からの
リクエストを参考に
導入遊技台を選定
(ジョイタイム)

頂いたお声に
コメントを添えて掲示
(所沢)



リクエスト
投票箱



頂戴したご意見は店舗で反映されます。お客様のリクエストから導入に至った遊技台。お客様のクレームによって改善した設備。気づきにつながり、ご支持を得るためのアクションはそれぞれの店舗でも、様々な形式で行っています。

町の楽しい存在になるため、
お客様のご意見には
しっかり耳を傾けて、
応えていくことが大事なんだ。

お客様から

Fun エピソードの例

スタッフから

駅の改札で困っているお年寄りを親切に案内しているピーアークのスタッフさんをお見かけしました。私服でしたので、勤務中ではなかったはず。制服を着ているときだけじゃないことが分かり感動しました。(銀座にて)

カモメールの抽選日&商品お渡し期間がすごく小さく書かれていて、ご年配のお客様には見づらいと思ったので、分かりやすいように大きく書いてお返ししたら、たくさんのお客様からありがとうを頂きました。(ユーカリが丘にて)

Funエピソード

ありがたいエピソードを集めた「Funエピソード」の取り組みが始まって約2年。エピソードは累計で5万件にのぼります。素敵なエピソードを全社員で賞賛したり、スタッフ間で共有して新たな「ありがたい」へ繋げたりと活用しています。

エピソードは休憩室に掲示して全スタッフで共有



また、お店でお客様から直接頂くご意見やエールもあります。その中で、特にお客様との絆を感じたり、心が通じ合うような話をピーアークでは**Funエピソード**と呼んで全社で共有しています。お客様からもらった言葉。お客様にお声がけした時の反応。地域の皆さんと触れ合った瞬間のこぼれ話。スタッフ同士の表話と裏話。社内から集まる色々な話。一つひとつのFunエピソードがピーアークとお客様とのリレーションの証です。

色々なご意見、そして

大切なエピソード。



地域の皆様と 共に

ピーアークの店舗があるいくつかのエリアでは、地域の商店街や、お仕事やお住まいで近隣に居られる方々と一緒に色々な取り組みを行っています。一つひとつは、決して大きなことではありませんが、地域の皆様に受け入れていただき、その中で培う「絆」は、私たちにとって大きな宝なのです。

地域町おこしへの参加



町の清掃活動(竹の塚他)



ピーくんが夏祭のみこしかつぎに挑戦!(満の口)



地域の大運動会へピーくんが応援参加(三田)



ゆるキャラ@さみっと参加(埼玉県羽生市)



カリン収穫祭でソーラン節を披露(竹の塚)

STAFF REPORT

2011 草加 よさこい サンバフェスティバル

昨年はお手伝いとビラ配りなど裏方のお仕事に徹しましたが、今年は踊り手「連」として出場させていただきました。場内マイクで「ピーアークさん、大丈夫ですか?」とお気遣いいただきながら、はじめての踊りにとまどいは隠せないものの、エンタメ原人らしく元気いっぱいアピールしてきました。

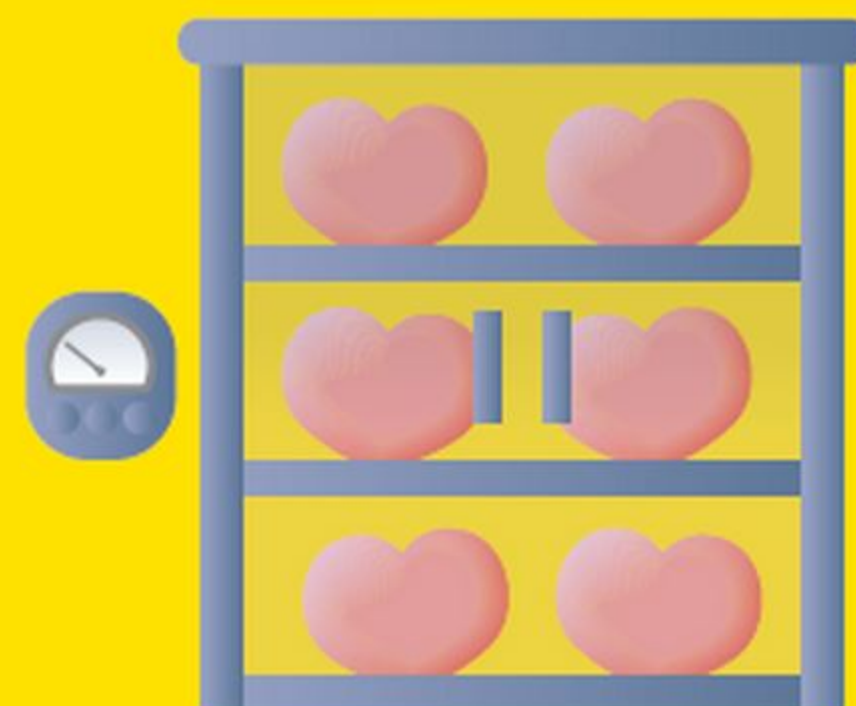
「ピーアーク連をみたよ!」、「いつも感心しているよ」、「何時間練習したの?」、「来年は私も踊りたくなったわ」など数々のお声を頂いており、地域密着のFun for Lifeを実感できた2日間でした。



色々な取り組みも
沢山の想いが入った
「ハート」になって
いるのかな。



たとえ利益が多くても、社会貢献に積極的ではない企業は存続の意義がない。これは創業時からの考えです。地球の未来を考えた活動を行い、それらを満たして初めて、真の安定成長と未来のピーアークがある、そう信じています。



CSR活動

ワクチン寄付 キャンペーン支援

予防可能な感染症で命を落とす子どもたちが多数いる発展途上国へ、ワクチンを贈る民間の国際支援団体「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」に協力。草の根キャンペーンとして全店舗でチャリティ活動を実施。



「スペシャルオリンピックス日本」活動支援

知的障がい者の自立と社会参加を支援するスポーツ活動。協賛企業として、2005年から活動支援しています。



「ピーアーク わくわくecoプロジェクト」で 「エコミスモ」活動支援

主にフィリピン貧困地域の雇用創出に貢献している「エコミスモ」(菓子袋を再利用した雑貨)販売に協力。店頭で菓子袋を回収して寄付も行いました。



ピンクリボン スマイルウォーク

乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるピンクリボン活動のメッセージを多くの人に伝えるためのウォークイベントに、毎年参加しています。



長野県王滝村 「ピーくん+1の森」プロジェクト

森の再生プロジェクトに参加。店頭でご協力いただいた募金を寄付したり、ひのきグッズ販売、売上の一部を村へ寄付しています。



あなたの笑顔が、がんばる元気に



with you プロジェクト

東北地方を襲った大震災。悲しみを超えて、豊かな社会が戻るように、今できることへの思いを推進力に転換して、これからもピーアークのミッションと重ねていきます。

→p26でも活動をご紹介します



一人ひとりに Fun を
One to One ソリューション

「楽得システム」

印西からスタートし、おゆみ野、ステージにも導入した「楽得システム」。パチンコ遊技の不満点やお悩みを解消した各台計数等をベースにピーアーク独自のサービスを付加して、オリジナルの戦略システムとして稼動開始。



ピーくんキッズに向けた 次世代エンターテインメント

足立区青井の地に「GAMEピーアーク青井」をグランドオープン。基本は0円、カードゲームで仲間と集い、お小遣い程度で楽しめるオプションサービス。未来のピーアークに欠かせないキッズたちに向けた新たなエンターテインメントスペースも Fun for Life の大きなハートなのです。



毎日の暮らしのどこかで誰かと触れあい、誰かを思いやり、時に助けられ、そんな瞬間瞬間に生まれた小さな「FUN」は、私たちの心を温かく、豊かなものにしてくれます。私たちピーアークが贈る「FUN」が、世の中の色々な場面のどこかでお役に立っていたのなら、これほど嬉しいことはありません。

一人ひとりに Funを届けたい





ハートを届けるこのCMで伝えたい想い、それは、お客様、地域、関わる人たちにとってピーアークがいつでも「楽しい存在」でありたいという志(WILL)。楽しいと思う瞬間は人それぞれ千差万別であり、その方にとってのオンラインワンのFunを考え、育て、ご提供しなくてはなりません。

しかし、それは決して大袈裟なことではなく、お客様1人ひとりと真摯に向き合い、応えてこそ生み出すことが出来る、信頼の証であると考えます。

そんな「小さなFun」のひとつずつが集まれば、ピーくんが運ぶハートの形になるのかもしれない。私たちはこれから、期待され続ける「町の楽しい存在」を目指し、Fun for Lifeを追求してまいります。



認定NPO法人「スペシャルオリンピックス日本」名誉会長
認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」理事長
「勇気の翼 インクルージョン2015」理事長
「日本フロアホッケー連盟」会長 「ableの会」代表

細川 佳代子氏

花も花なれ、人も人なれ。
～ 勇気の翼で、
あるがままの
自分を開く ～

ピーアークホールディングス株式会社
代表取締役社長

庄司 正英



庄司 細川さんとの対談は、あれから（2006年2月15日、ピーアーク銀座にての対談以来）5年ぶりですね。当時のCSRブックに掲載させて頂きました。また、私の書齋に細川元首相から頂いた色紙があります。「則天去私」。天に則り私を去る。意味は小さなことに



散りぬべき 時知りてこそ 世の中の

花も花なれ 人も人なれ

細川佳代子氏の著書のタイトルも飾っている細川ガラシャ辞世の句です。細川佳代子氏が高校の折、演劇の発表会で選んだタイトルは「細川ガラシャ」。後に、夫となる細川護熙元首相と出会うことになりましたが、この時点で、演劇のタイトルは出会いの予兆だったのでしょうか。

薬師寺の高僧高田氏との問答で「あるがままでいい。そのままでもいい」と言われ、上智大学の時には建学精神の「他者のために他者と共に生きる」にインパクトを得て、細川氏の信条基盤が形成され、幼少期より母親をして、「生まれながらのボランティア」と言わしめた行動の数々をお聞かせいただきました。出会いは必然といわれますが、あらためて運命の糸と人生の意志が感じられました。

中学時代のエピソードとして、ある時、今で言う高齢者介護施設の、たくさんの方の身寄りのないお年寄りたちを友人たちと訪ねて行き「喜んでもらえることをしよう、おじいさん、おばあさんたちが『笑顔』になってくれるに違いない」、それが氏にとつての「楽しいこと」だったとのこと。喜ばれることが楽しさに繋がっているという、細川氏のこうしたお話から、「あるがまま」には絶対的な自信さえ感じました。

相手を思い、あるがままに接し、喜び楽しんでもらいたい、そう子供の頃から無意識に行動していた氏は、天性のエンターテイナーということになるのでしょうか。世の中と誰かのために、私たちが信ずるものを提案し、結果として喜び楽しんで頂きたいと、私たちなりのエンターテインメントを探索し、常にそう願ってやまない私たちピーアークの志に、エールとも取れる灯火のともる今回のP対談でありました。

(記：庄司正英)



とらわれず、身を天地に委ねて大きく生きるということですが、この言葉は、今年還暦の私の後半人生の教えとしてあらためて机の前に掛け直しました。

平成23年は、おそらく東日本大震災の年として、日本の歴史の転換点に記されることでしょうが、天災は被災地だけの悲劇ではなく、国の社会基盤を揺るがし、経済活動を遮断する大きな危機であることをあらためて痛感し、今回は市場縮小による危機をも経営トップとして認識しました。被災地では多くの尊い命が失われ、その計り知れない悲しみの中でも希望を胸に、一歩ずつでも前に歩もうとする人間の精神の強さには、美しささえ感じます。その方々の気持ちを思えば、私たちが成すべきことは、慈しむ気持ちを持って、それぞれの義援活動やボランティア活動を途切れることなく続けることで、そういう意味ではまさに、企業や企業人のあり方までも問われたのだと思います。

細川 今回の震災は、今思えば、人としていかに生きるかということについて突き付けられた感じがしています。大自然への畏怖の念を疎かにしてはいなかったか、目の前の欲望に振り回されてはいな

かったか。日本全体が人間の道をあらためて歩み始める、自分事として受け止めこの先の復興にどう活かしていくのかが、今問われているようです。たとえば「絆」という言葉が大きくクローズアップされた、そのことも、助け合いや分かち合い、相互扶助、隣近所、礼節や美徳とか日本人のDNAに刻まれた因子の力でもう一度国づくりをする、きつと、そういうチャンスなのだと。

庄司 ピーアークも、私たちなりに考え行動しました。生活物資や募金や寄付についてもそうですが、ある程度の時間経過の中で、被災地でさらに頑張っていると思えるきつかけになるのが、笑顔や笑い声、子どもたちが元気に遊ぶ姿じゃないか。それならピーアークにもつとできることがあります。ということ、福島、仙台、東松島と出かけて行きました。全社の取り組みとしての支援活動を「With You プロジェクト」と位置づけ、節電だけでなくお客様との絆と笑顔を、被災地の皆さんの頑張る元気へとつなげるために、今私たちに何が出来るかを一生懸命考え、力を合わせ、気持ちを重ね、全力で取り組みました。こういう時だからこそ、エンターテインメントを業

としている企業としてはやらねばならぬと考えましたね。マスコットキャラクターのピーくんが最初に手を上げて行動してくれたといったところ（笑）。でも、逆に自分たちの方こそ、子どもたちの笑顔とエネルギーに励まされたかもしれない、スタッフはそう感じて帰って来ました。

細川 いいきっかけをもらいましたね。何が出来るかを考える、実際にアクションする。そしてきつと学ばれた、ということですね。今度はその経験を、日本のために良きこととなるように、プラスに作用させていただければと思います。

ところで、JCA (Japan Committee Vaccines for the World's Children「世界の子どもにワクチンを日本委員会」)は、その活動にご協力頂いている企業・団体の皆さんのご了解も頂いて、新たに寄付を募って被災地を支援すること(Kids Smile Project、子どもの笑顔プロジェクト)を決めました。ピーアーク様はじめ、販売額の二部が寄付金となるクオカード様など企業をあげてのご協力のほか、最近では個人の方のご賛同も頂けて、以前よりさらに広がっています。

庄司 ええ、私どものスタッフも普通に感じて、「何かしなくては」「ほっとけない」と、当たり前

のように行動できたことを私も経営者として誇りに思います。そういった広がりで生まれる、いろんな新しい出会いや時間と共に深めていける繋がりがあられると思いますが、細川さんの「絆」論について伺いたいと思います。

細川 そうですね、いろんな人との出会いが私を育ててくれました。小学生の頃からそのようなふうに思っていますし、そういう体験をしてきたからでしょうね、やはりひとりじゃ生きてはいけないなと思ったんです。では、そういう繋がりが絆のおかげで自分があるとしたら、私自身も出来る限り人との繋がりが絆を深めていききたい、それが私の活動のコンセプトのひとつだと言えますね。ありがたいことに家族の繋がりの深い、そしてきつと恵まれていたであろう家庭で育つことができたと思っていました。そこにあらをいかしてはいけないう、ある時思ったんです。だから出来る限りのことを体験しました。挑戦です。女性サーファーの走りでしたから、波乗りバードと呼ばれていた時代もありましたし、お小遣いはアルバイトで稼ぎました。そういう経験をしないといけないうと自ら望んで自分を持っていきました。

庄司 当時の若い女性の意識にそういう発意と

行動は少数派でしょうが、なにか使命感があつてのことか、向上心ということだったんでしょうか？

細川 いえ、自然でしたね。無理はしていません。自分の中から湧き出て来るというか。私は親に迷惑をかけずに生きていこうと勝手に思い込んでいましたし、それがお金を稼ぐという行為へ自然に繋がったと思います。貯めたお金で海外に行った時も、誰も知り合いのいないヨーロッパへ意気揚々と出かけて、体験したことのないものに自分を置いてみたくなる冒険心というか、チャレンジ精神というか、普通だったらきつとやらないことにワクワクしたいんですよね。でも周囲の人たちからは悪趣味だつて言われますけど(笑)。当時あつたのは冒険心のみでした。子供の頃、ミッションスクールでの教育で信仰心とか隣人愛とかの教育を受け、自分と同じように他人を愛すると教わった小学校5年生の時に「絶対にけんかをしない」という誓いを立てて今に至ります。平和主義のかたわらで、誰もやったことのないようなことと聞くと、どうしても自分でやってみたくてワクワクしてしまう。何にでもチャレンジしたいと思っていました。そして絶対「ムリだ」と私は思わない、そういう環境に置かれていたことに感謝しています。

庄司

今回のスペシャルオリンピックス日本(SON)のナショナルゲーム(国内大会)。福島で開催、というのにはいささか驚きました。

細川

福島大会というのは震災前から決まっていたことでしたが、一時は開催が危ぶまれました。でも地元の実行委員会から「こんな時だからこ

絆や繋がりを深めていきたい、

その想いが未知の活動へ挑戦するきつかけに。

そ福島でやることに意味がある。」という熱い申し出を受け、予定通り開催することに決まりました。地元の人々の熱意に打たれて、是非とも成功させてやりたいと思っています。

庄司

私たちも気合いを入れて応援活動をさせて頂きます。来年2月10日(金)・12日(日)





人生の良薬は やはり逃げずに 苦境を超えた経験

に開催されますが、ビーアークグループからもボランティアを募り、各カンパニー単位で参加します。大会タイトルは「心強く、心豊かに、心ひとつに 心うつくしまふくしま」だそうで素敵ですね。たとえ寒い中でも、選手の皆さんの心温まる笑顔と一生懸命頑張る姿に、私たちもエネルギーを分けてもらえると確信致します。今年度のビーアークの「With You プロジェクト」のファイナルイベントは、予定人数20名の団体参加、お客様からのエール、スタッフのエール、ビーアークのご近所からのエールを「福島に、アスリートに。」届ける壮大な企画を予定しています。

話は変わりますが、私は今年還暦になりました(笑)。その記念に還暦クルーズとして夏休みに敬愛する関東ニュービジネス協議会(NBC)初代会長の野田二夫先生、同じく還暦世代のHISの澤田会長、パソナの南部代表とで地中海クルーズを楽しみに行つて来ました。毎夕食後の歓談は、野田先生を囲んでの勉強会でしたが、その最大のテーマは、もちろん「日本再生」でした。

過去、日本の大災害は、歴史的にひとつの時代の終わりと重なっていて、安政の大地震(1854年)とペリー来航に続く開国、関東大震災(1923年)

に続く第二次世界大戦、そして阪神大震災(1995年)からの停滞日本の失われた20年、そして今回の大震災は、おそらくグローバルリズムの終焉で、世界危機の20年になるだろうと先生は指摘していました。日本のこの先は緩慢な衰退でなく、再生か衰亡の二択だと。震災の損害額25兆円、復興費30兆円、安全安心を失ったJAPANブランドの損失は、もはや金額表示できないくらいの損失です。残念ながら日本全体が凋落への運命論的な諦めへと流れ、信じられないくらいの閉塞感、もはや怒りの領域を超えたレベルでしょう。再び日本が、未来ある国になるには、揺るぎない覚悟と強さへの確信を取り戻すことしかないでしょう。

結論は、日本の危機は日本人の内にあり、それは自信喪失と突破力の欠落でした。野田先生は、立教大学では日本初の「観光学科」を開かれ、また多摩大学の学長時代には「事業構想学科」等の、時代が求めるNEXTづくりが得意技です。日本の再浮上には「構想力」こそが必然です。「では、何をどうするか、第二に着手すべきは何か」です。現状は、再成長へのアイデアはいくらでもあり、皆、成すべきことは認識しています。要は、百家争鳴を遮断し、とにかくやってみる決断と「実

行力【で、理屈優先でない覚悟と「突破力」しかない」と断言。そして、その力の源泉は未だ多くは眠っていて、それはわれわれの足元に在りと断言しました。そうです、重い成功体験と既成概念の虜でない若い世代の潜在パワーを引き出し、点火すること。野田先生曰く、「それは君たち、還暦世代のミッションだ！」で勉強会を結びました。

また、3人の還暦後のキーワードは、「振り向くな、後ろには微塵の夢もない！」でしたので、私も楽しい人生のチャレンジジャーとして、【20ビジョン・Fun for Life】に向け、前へ、上へと頑張ろうと自らに再設定しようと決意しましたね。

振り返りと言え、この業に携わってからは、本当にたくさんの壁がありました。その時々「この壁、退くか、越えるか」の繰り返し。人生の良薬はやはり逃げずに苦境を超えた経験にあります。思えばいわれのない障壁があればあるほど、だんだんと自分なりの「正義」に燃えて来るんですね。損得を超えた信念の戦い「ジハード」だとやってきました。

ところで、細川さんなりのジハードはたくさん有るように思いますがいかがでしたか。細川家のお嫁さんというの大きなチャレンジだったのではありませんか？

細川 でも、私は楽しかったですよ。それは、やはり家族とか夫とか、私を支えてくれる存在があったということが、私が思い切ってチャレンジして来られた理由なのかもしれません。

細川家の嫁も最高に楽しいチャレンジでした。政治家になりたい主人と反対する義父。親子で直接話したりしないものですから私に間に入って関係をとりもちました。通訳みたいにね(笑)。

庄司 ところで、以前ピーアークもお手伝いさせて頂きました映画「エイブル」や「ビリーブ」の進歩形で、今「インクルージョン」というキーワードの活動に取り組んでいらつしやると伺っています。やはり「共生」が共通のテーマでしょうか。

細川 ええ、数年前に、「勇気の翼 インクルージョン2015」という新しいNPOを立ち上げました。今の目標は、「インクルージョンの社会」の実現なんです。「インクルージョン」と言ってもたぶん9割がたの人はご存知ないと思いますが、分かりやすくいうと、エクスクルージョン(排除)の反対がインクルージョン。社会から排除される人がいないということ。弱者、ひとりで生きづらい人、または孤独で死にたいと思っている人たちをなくす社会。実は、日本という国は現実はずごく厳しい国なんです。



映画「幸せの太鼓を響かせて」

製作総指揮・細川佳代子氏、監督・小栗謙一氏。
映画「able」「Host Town」「Believe」に続く第4弾。
知的障がい乗り越えて全国2位に輝いたプロの
和太鼓集団の足跡を追う珠玉のドキュメンタリー。



公式サイト: <http://inclusion-movie.com/>

それは何が原因かというところ、絆を断たれてしまっているからなんです。残念ながら障がいのある人は、彼らのせいではなくて社会のせいで絆を絶たれて排除されている。効率や競争主義、利益第一の世の中で福祉という枠の中に閉じ込められて、社会から隔離、つまり排除されているんです。だから、私たちが偏見を持つのも当たり前なんです、だって何も知らないんですからね。障がいのあるなしに関係なく全ての人がその人らしく助け合う、ぬくもりのある社会創造をめざしています。

庄司 インクルージョンは、日本語では何と訳すのですか？

細川 包括とか、包摂とか。難しい言葉なので、私は『全ての人を包み込む、共生の社会』というように説明しています。これから私たちが作ろうとしている社会、それがまさにインクルージョンなんです。それがすべての社会の原点、つまり絆のある、誰ひとり排除されない社会の姿ですよね。復興、復興と言っていますが、どんな社会に復興させようとしているのか、行政も最初からそのつもりで地域社会を作って欲しいですね。「さわやか福祉財団」の堀田力さんをご存知ですか？彼の財団は高齢者の居場所を作り、生

ピーアークは、
ゼロからイチを
生み出す
パッションを
進化させます。



きがいをもって暮らし、人間の尊厳を死ぬまで持ち続けることができる社会を目指して、ごく素晴らしい活動をされています。ただ、障がい者という視点が少し弱いので、高齢者だけでなく障がい者をもっと入れて下さいとお願いをしています。障がい者だつてすごく孤独なんです。親が亡くなった後だつて心配です。今まで福祉は、施設を作つてそこに入ることが良しと思われて来ましたが、それではダメですね。彼らは社会に必要な人です。一人ひとりがユニークでみんな違うし、同じ自閉症でもみんなそれぞれ違った個性を持っています、なんて人間は楽しいんだろうとワクワクします。色んなことを私に教えてくれるし、本当に彼らというところが日本では、福祉という名目で知的障がい者を隔離してしまつた。でも、その間違いに気付いた人が最近は多くなりました。いつかはそんな人が社会の真ん中に出てきて彼らの能力を発揮できる、社会の役に立って暮らして行く社会を作るのが私の目標です。

実はその実例が長崎の「コロニー雲仙」です。三十数年前、長崎中から知的障がい者が集まり、当然入れなかった人もいるわけだから、入れたということは幸せだと親は思っているわけ

ですね、これで安心して暮らせると。でも、田島理事長がある時尋ねたの、「君たちは幸せだね、こんな施設に入れて」と。すると、みんな「はい」と答えた。次に、今一番何をしたいかを探ねたら、全員「家に帰りたい」と言ったそうです。みんなを1箇所に集めて安心と言うのはこちら側の考えで、本当の彼らの幸せを考えていなかった、生まれ育った地で大好きな家族と一緒に過ごすのが一番の幸せなんだ。そこで彼は、それを30年かけて実現しました。日本中から注目される社会福祉法人になりました。まず職業訓練センターを作り、生活訓練、職業訓練をまるまる2年間厳しく受けた人たちが、毎年自分のふるさとに帰ります。食肉工場、パン工場、かまぼこ工場、麺工場、給食センター、彼らの得意そうなもの、農業、酪農、養鶏といった仕事も彼らがちゃんと働けるように整えました。これまでに1800人卒業しています。そして次のステップ、好きな人ができて、パートナー生活、上手く行って結婚したカップルもいます。映画「幸せの太鼓を響かせて」INCLUSION」の中の「瑞宝太鼓」は、厳しい練習を重ねてプロとなった人たちで、みんなの憧れの的なんです。メインの6名の内2人が結婚し

ポリシーは
「ビジョン、ミッション、
パッション、アクション。」
実行できなければ
何の意味も無い。
ならば、どうやって
実行するかだけ。



ていて、団長は子どもも育てているんですよ。障がい者同士結婚して自立して子どもを育てているのは、日本でこの家族だけだと思います。

庄司 全ての人を包み込む、共生の社会の実現は大上段にでなく、私たちの気持ちの問題でしょうか。「勇気の翼」では、そういうことをやろうということなんですか？

細川 私とわずかなスタッフだけでは、それをやろうなんて不可能ですから、そういう活動をバックアップする運動です。同じような活動は、点ではあるんですが、それを繋いであげる。地域社会のみんなが協力して実践していく社会運動に育てたいと思っています。

庄司 まったくその通りですね。私も、この世の中は閉塞的で、それを担う人たちが、特に政治の人たちが職業病的機能不全を起こしていると思っています。新たな時代の要求と断絶しています。では、どうすればいいのかですが、やはり社会を変える原点に帰ると、ある意味では多くの気持ちの変化の社会運動で世の中を変えていく以外ないのではないのでしょうか。たとえば今はSNS（ソーシャルネットワークサービス）のフェイスブックやツイッターなど、その有力なツールがたくさんあります。そして、それに点火し行動

するには、次の世代へ私たちが語りかけないといけないのだと思います。

細川 そういう意味では、まさに社会運動ですよ。官僚だけが日本の国を引っ張るのでなく、民間、経済界、教育界、あらゆる人たちが社会運動として、社会をどうするかというムーブメントを起こす、それがインクルージョンという明確な目標として出てきて欲しいです。

庄司 とても良い響きですね、インクルージョン。

細川 ヨーロッパでは既に浸透していて、インクルージョンに関する研究や学者も、ヨーロッパ、アメリカなどにたくさん出ているんです。日本の書店にはほとんどありませんが、欧米に行けばインクルージョンに関する本はいっぱいあるそうです。日本人には競争や自己主張は合わない、もともと助け合うのが大好きですから、それができるような場を社会全体で作っていかねばなりません。

庄司 ある意味、ムーブメントを起こそうとしていらっしゃる。長崎でだけの話でなくて、まさに社会運動になるでしょう。インクルージョンの連鎖で広く浸透する活動のお手伝いは、まさにビーアークのクレジット「Fun for Life」/世の中を楽しくすること」に通じます。私たちの今夏の節電目標は25%でかなり高い目標でしたが、被災

地を思い意識を変える事により実現できました。輪番休業で月3日の店休は確かに売上減となりましたが、お客様への節電協力依頼などの過程でお客様本位の営業のあり方をあらためて意識できました。

「with you プロジェクト」では、従来から行なっている募玉活動をさらに力を入れて取り組んだ結果、お客様からの善意の募玉・募金額は2020年9682円に達し、節電貢献は、前年同月比26.5%、今年開催10年目を迎えた「ビーアーク presents 募玉メッセ」で、被災地へ送るための衣類が約11トンも集まりました。ビーアークの店舗では、特にファン草加だけでダンボール150箱分の衣類が集まって、ピーくんグッズの物販チャリティーや東北名産品物販、そこから生まれるお客様との対話の中にも、私たちにお寄せ頂いている期待、お客様との絆、まさにビーアークの「勇気の翼」を感じ取れました。「勇気の

翼」は社会を変える活動にはびつたりの言葉ですね。

細川 2005年の長野世界大会の閉会式で私が使った言葉なんです（笑）。その時に自分の願いや写真を貼った白い翼を皆で飛ばしたんですけど、「今日は終わりではありません。今日が始まりです！」って言いました。大会は大成功に終わりました。しかし、本当の成果が問われるのは10年後です。ぬくもりのある社会が実現した時にはじめて、この大会が成功だったと言える、勇気の翼を大きく広げて、インクルージョン社会を目指して飛び上がりたい。私のポリシーは、明確な少し高めの目標をいつも持つようにしていること、そしてそれを達成するために使命感を持つ。そして情熱を持って行動する。ビジョン、ミッション、パッション、アクションですから、そういう社会の誕生をぜひとも成し遂げる、その支援活動を続けていきたいと思っています。

勇気の翼を大きく広げて
皆で社会を変える力に

庄司

ビジョン、ミッション、アクション

ですか、とても響きますね。私の経営のPLAN・DO・SEEは、「企て、人を思い、足るを知る」ですね。3年スパンで戦略目標を立て、誰に委ねるかを考え、達成した結果を受け入れる。つまり、純な右肩上がりや同じ戦略のコピーは通じません。同じビジネスモデルの倍増計画で大儲け、そういう理論ではリスク拡大の時代ですからね。細川さんのビジョン、ミッション、アクションは、私たちピーアークの20ビジョンにも、 credo「Fun for Life」にも、社訓にも通ずるお話で、とても共感できますね。でも、事を実現するには自らの行動様式を変革せねばなりません。実はそこが一番むずかしい。

細川

アクションというの、そのアクションを起こ

させるためにも必要な要素です。もし実行できなかったなら何の意味もない、もしそう思うのなら、どうやって実行するか、だけです。

庄司

イノベーションせよということですね。細

川さんは、これまで本当に大変で劇的な局面に立ち会って経験されて来られたと思います。が、「楽しかった」と笑って言えるところが素晴らしいと思います。

細川

ありがとうございます。でもそれはた

ぶん天性のもので、親から頂いたものだと思います。ファーストレディーをやっていた時が一番じゃないかって言われることがあります。その時が実は一番暇でした(笑)。公務のために個人的な活動を控えてくれた。その時に比べたら今はまたとても忙しくしていますが、楽しんでやっています。

庄司

私たちもおかげで楽しいよと、お客様

や世の人々から感謝される、そんな仕事を一生懸命掘り下げて進化していきたいと思っています。お客様を楽しくする、そのためにまず社員を楽しませようって私も楽しみながらいつも難題を出題しています(笑)。

ピーアークは、ゼロからイチを生み出すミッションを進化させます。ピーアークのピーアークたる所以と理念で、これからも細川さんのように「あるがままに」、お客様を思い、地域を思い、信念と共に私たちの考える楽しきこと、楽しき世を探求し、「Fun for Life」で邁進していきたいと思っています。久し振りにじっくりとお話できて、いろんな気づきや素晴らしいワードもご教示頂きました。今日は本当に楽しい時間を過ごさせて頂きありがとうございます。(敬称略)

PROFILE

細川 佳代子 氏

1966年上智大学英文科を卒業、日本企業の欧州駐在員として勤務。71年細川護熙元首相と結婚。夫の政治活動を支えながら、多くのボランティア活動に参加。92年スペシャルオリンピックスの活動を開始。94年「スペシャルオリンピックス日本」設立、2001年に特定非営利活動法人となる。05年2月に長野で開催されたスペシャルオリンピックス冬季世界大会の会長を務める。現在、特定非営利活動法人「スペシャルオリンピックス日本」名誉会長、「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」理事長。



Fun for Life



を求めて Vol.6

群馬県にね、2年に1度だけ町全体がアートの魔法にかかっちゃう、そんな不思議な町があるんだって。そこからは、若者の想いと、町みんなの笑顔、そして未来への希望が聞こえてくるよ。関わるみんなが楽しくなれる、これって「Fun for Life」とおんなじ想いだよね。よし、早速この町に行って、Fun for Lifeの魔法教えてもらわなくちゃ！

PKUN

NAKANOJO BIENNALE

中之条ビエンナーレ



ここは、群馬県中之条町。美しい自然に美味しい空気、のんびりとした癒しの町が突然大変身を遂げる、それが「中之条ビエンナーレ」だよ。実行委員会の唐澤さんにお話を伺いました。

「きっかけは、美大出身の6人の若者でした。」廃校となった校舎をアートリ工にして創作活動をしていた6人は、町の素晴らしさや人々の温かさ、にふれる中で、中之条に自分たちの作品を展示して町の人に見てもらいたいって思うようになったんだって。「町も、特に農村地域は過疎が深刻で、『自分たちはこの町ですって頑張ってきたのに、若者は出ていくし誰も入ってこない。ここはつまらない場所だったのか』と思っている人もいたかもしれません。町としての対策が急がれていました。」美術展を町全体のイベントとすることで、町の人に作品を見せたい、観光客を呼びた



「ビエンナーレ」って何?



『2年に一度 (biennale) の美術展』という意味で、ヴェネツィアやサンパウロのものが有名だよ。日本でもさまざまな芸術分野の、さまざまな町や企業の主催で開催されていて、今回訪ねた「中之条ビエンナーレ」もそのひとつなんだよ。

1. 「四万あかり」山重徹夫 + 地元のみなさん
2. 「中之条ビエンナーレインフォメーションセンター」
生物建築舎 + 小阿瀬直 + Maniackers Design
3. 「最後の晩餐」大石麻央
4. 「ハダリー」川田淳
5. 「嵩山城竹城プロジェクト」勝木繁昌
6. 「もりのこころころ」花田嘉雄

いという2つの想いを実現することになったんだ。

中之条ビエンナーレは、町全体が会場なんだよ。作品だけじゃなく、その場所の風景や魅力も楽しめるんだ。町のみんなは、その魅力を最大限に引き出すためにいろんな努力をしているよ。「芸術は、ある意味理解がすごく難しいものだったりします。でも、『作品はよく分からなかったけど、すごく素敵な町ですね、こんな場所に住めるなんて羨ましい』なんて言葉を頂いた人たちは、この町の良さを再認識して、より中之条が好きになれたんです。」

町も人もみんながハッピーに、そんな場所には是非行ってみたいくなっちゃうよね！人口約1万7千人の町に、約35万人が訪れたって理由も納得できます。では、その秘密を探しに行った、ぼくの Fun for Life 探検記を紹介します。

まず、この美術展のポイント
は、廃校や使われなくなった
建物を利用してのことだよ。
空屋のままでは何だか寂しい
場所も、この期間はアートの命
が吹きこまれて、レトロな外観
と、中に広がる世界のコントラ
ストがすごく不思議な感じ！
それにね、作家さんにとって
も、空屋は色を塗ったり釘を
打ったり自由に表現ができる
好都合な場所なんだって。地
元の人は、「昔はここによく
通ったなあ」なんて懐かしみな
がら楽しんでいたよ。みんなに
プラスな活用ができていまし
た。他にも、川や森などの自然
も展示場所になっていて、ガイ
ドブック片手に展示場所を回
るのは何だか探検をしている
みたい！全部をまわるのはと
ても1日じゃ足りないよ。



伊参スタジオ(旧第四中学校)

映画「眠る男」「月とキャベツ」などの
撮影拠点となった伊参スタジオ



7. 「光の果て」中澤小智子
8. 「LOTUS LAND-NAKANOJO」
小原典子

レトロな倉庫の中に
広がるのは幻想的な
光の花たち



町の人にも色々と変化があったみ
たい。実は、第1回のときはビエン
ナーレが町の活性化に繋がるかみん
な半信半疑だったんだって。でも実
際は、たくさんの観光客が来て飲食
店が潤ったり、普段は誰もこないよう
なところにも若者が訪れたりしたん
だ。町の人が案内してくれば、ガ
イドブックに載ってないことまで教
えてもらえるし、町の人も観光客か
ら言われて改めて感じた町の良さ
とか、自分の町でも知らなかったこと
がたくさんあって、もっとたくさんの
人に知ってもらいたいって思うようにな
ったんだって。最初は、次々と来る
観光客にどう接していいか分からな
かった人たちも今は各展示場の案内
係を交代でボランティアで務めたり、
大道エリアでは、25世帯の小さな地域
なんだけど、まわりに飲食店がないか
ら、みんなで協力しておやきを焼いて
販売して、売上金で色々なイベントを



12



13



11



富沢家住宅

国指定重要文化財の富沢家住宅も
キャンパスに



10



中之条ビエンナーレ
実行委員会事務局
唐澤 敏之さん

古い民家や学校、
自然も会場に!



Life探検記でしたー!



16

空間を新しい視点で活用する、
自然とのコラボレーション

- 9,10,13,「景色」伊藤隆之
11,「存在」西嶋雄志
12,「Flower Field」天田真弓
14,「happy my school」
東瀬戸あゆみ
15,「逢いたい」本多絵美子
16, 武内カズノリ「波紋」崖っぷち
のサークルあるいは、阻害さ
れた者たちの保塁*



14

旧第三小学校

2005年まで使われていた木造校舎。
賞状や自由研究などの展示が残ってい
て小学生時代の懐かしさも味わえる



15

視察に行つて参考にし
たり、自分たちも楽し
みながらやっていたよ。
町の人は、ビエンナーレ
を盛り上げる魅力の
ひとつなんだ。

美しい自然と、それ
を彩る作家さん、町の人たち。みん
なの想いがこのビエンナーレを作つて
いるんだということが分かりました。
中之条ビエンナーレには、たくさんの
FUNが詰まっていたよ。

「ビエンナーレはあくまでもきっかけ
であつて、これをどう生かしていくか
がこれからのステップです。中之条と
言えば...と多くの方にイメージして
もらえる町にしたいですね」と唐澤
さん。FUN for Lifeと同じ思いが随
所に感じられて、なんだか嬉しくな
りました。以上、ぼくのFUN for
Life探検記でしたー!



Fun for Life



通信

with you 特集

がんばる元気に

前号のFun for Life誌面でもいくつかご紹介いたしましたが、ピーパークでは、「今、私たちにできること」として様々な支援活動を行ってまいりました。「東北にFun for Lifeを届けたい。」その思いはだんだんとお客様、町の方々にも広がり、with you～あなたの笑顔が、がんばる元気に～へと発展いたしました。



with youプロジェクト活動は、HPでもご覧いただけます。
www.p-ark.co.jp/park/



支援物販実績 (7/1～11/30)

販売額 : 598万5,209円
販売個数 : 4万397個

東北支援物販

被災地では、津波の被害からは免れたものの、販路を失い操業できない工場も少なくありません。ピーパークでは景品に東北地方の名産品を揃えた「東北物産フェア」を実施し、お客様には選ぶ楽しみを、東北地方には元気を届ける取り組みを行っております。





「がんばっぺ東松島みんなで夏まつり」



震災後初の祭となった「復興祭」



ピーアークボランティア隊

被災地へ直接「Fun」を届けるボランティア活動。遊びの力で笑顔をつくる「ピーアーク縁日」を始めとした活動を行っております。

主な活動実績

- 宮城県東松島市西地区「復興祭」
- 「いわて三陸復興食堂」
- 「がんばっぺ東松島みんなで夏まつり」
- 宮城県仙台市「鎮魂と復興のつどい」 ほか

あなたの笑顔が、

支援募玉・募金活動

11月末現在で

2,186万7,021円分

が集まりました。

(お客様募玉・募金、
スタッフ募金合計)

節電対策

ピーアークグループでは、2007年より電力監視システムを導入し省エネへの取り組みを進めてまいりました。今期は輪番店休やサマータイム等も導入し、より一層の節電に努めました。今後も、社会情勢に応じ、必要な対策を継続してまいります。

節電実績 最大使用電力1日平均削減率

7月	8月	9月
30.7%	35.4%	28.6%

各店の取り組み

支援物資回収 (草加エリア)

GW期間中に実施した衣類回収で紡いだ「絆」を活かしたお役立ちとして、店頭での支援物資回収を実施し、集まった物資は、草加市役所、岩手県釜石市役所などにお届けいたしました。

ジュース募金 (足立エリア)

毎日少しずつ協力できる活動をスタッフで考え、休憩室自動販売機の価格設定を20円上げ、その分を義援金とするジュース募金を足立エリアで実施しています。



11月末実績

3万4540本

(69万800円分)

スパリゾートハワイアンズ 2012年2月8日グランドオープン! ーがんばっぺ、フラガール!!ー



Fun for Life vol.1でご紹介した、
福島県いわき市の「スパリゾートハワイアンズ」が
震災をのりこえて、いよいよ2012年2月に再始動します。

震災後、施設は閉館を余儀なくされましたが、5月の地元いわき市避難所を皮切りに「フラガール全国きずなキャラバン」として、26都府県、124か所にて巡回公演を実施されて来たそうです。

そして今秋、屋内温泉公園「スプリングパーク」や世界最大の露天風呂「江戸情話与市」など、部分オープンで営業を開始。その再開の様子は多くのマスコミでも紹介され、復興への希望の光となってきました。そしていよいよ2012年2月、改修リニューアルした「ウォーターパーク」と新ホテル「モリス・タワー」といった新アミューズメントとともに新たな展開でスタートされるとのこと。

東北復興のシンボルのひとつとして全国からの注目を集めて来たスパリゾートハワイアンズ。

たくさんの方の自然、良質の温泉、人々のぬくもり、心のこもったサービス――。

これからまた新たな「Fun for Life」が次々と生みだされていくことでしょう。本誌でも引き続きスパリゾートハワイアンズさんを応援します！

GAMEピーアーク青井 グランドオープン!



GAMEピーアーク
アミューズメント Community

東武伊勢崎線西新井駅から環七通りを亀有方面に向かって車で約5分ほどの位置にゲーム事業の店舗としては、ピーアークで2店舗目となる「GAME ピーアーク青井」が2011年8月1日にグランドオープンいたしました。

今回のGAMEピーアーク青井は「ゼロ円ビジネスモデル」へのチャレンジとして1階に今、小・中・高校生に人気のトレーディングカードで遊べる、無料の専用スペースを設けているのが特徴です。仲間と集い、お小遣い程度で楽しめるオプションサービスで未来のピーアークのお客様に Fun for Life を提供するとともに、ピーアークファンの間口進化論をこれからも追求して参ります。

GAMEピーアーク青井

店舗データ 所在地: 東京都足立区一ツ家3-8-12
駐車場・駐輪場完備



「リアルな遊びの醍醐味」

今中 徹也さん（品川区在住）

He's

a Fan

楽しみのヒント、
みつけたっ

——プロフィールを教えてください。

小中高と海のない奈良県で過ごし、京都の大学で中国文学を学びました。これから中国経済が大きく伸びるということを知り、いずれ中国語が役に立つときが来ると。会話力は今ひとつですが（笑）

——海のない県で……ということですが、

小さい頃からの趣味は釣りなんですよ？

祖父の影響ですね。メダカすくいから、オイカワ釣り、中学・高校はバスケットに没頭していましたが、大学時代は奈良から京都に向かう途中に琵琶湖があり、バス

フィッシングブームが起きました。子供の頃の思いが蘇り、ひたすら通っていました。

——釣りがお仕事にも役立っているそうですね？

釣りは、水面があつて深さがあつて、季節や時間、様々な条件を想定し、魚の習性も踏まえた上でアプローチして獲る。一連のゲームにも戦略が必要で、ある意味エリアリサーチやマーケティングです。仕事も釣りと同じで、こういった地域で、誰に対してどうアプローチするかが重要、つまりはマーケティングと釣りの考え方はいつも同じです。

——他に大学時代の思い出はありますか？

パチンコを経験したのもこの頃です。同級生みんなでワイワイ楽しむタイプでした。そういえば、なかなか大当たりが引けず、台を変えようかお店を変え

ようか、このままじゃ帰れないぞとやっているうちに閉店時間になってしまつて。そして友人の二人が、「名古屋はパチンコ発祥の地だから24時間やっている、よし名古屋に行くぞー」ということになり、京都から二宮まで走っていったのですが……。営業時間は決められているわけで、当然どこもやっていませんでした。今となつては良い思い出です(笑) 最近は釣りマイブーム再来でなかなか出来ていませんが。

——そんなにも熱狂させてしまう釣りの醍醐味って？

「魚信」がきてからの勝負。魚信が来ても全てが獲れるとは限らない。全て獲れたら面白くないし、獲れるか獲れないかを埋めるために技を磨いたり工夫をしたり、創意工夫があるんですね。

私にとっては、生きていることを実感させる唯一のもの。遊びの世界も、リアルな世界からバーチャルな世界へと移行してい

ますが、感動の大きさはリアルにはかなわない。膝がガクガク震えるような感動や仲間との思い出、食卓を彩る魚。集中とワクワクドキドキ、釣りもパチンコも、当たりの時は感動しますね。そして、時間と共に感動がしつとりと深まっていく。その日のプロセスを振り返って反省したり、次の戦略を立てたり。バーチャルゲームも楽しいけど、感動の振れ幅は小さいと思います。ましてや自然を相手にしたりリアルな遊びの醍醐味が、釣りにはありますね。

——現在、(社)関東ニュービジネス協議会に出向されていますね。パチンコが社会を応援する「Eco-Port」を模索していますか？

これからは間違いなく少子高齢化になり、パチンコも近い将来、企業とお客様の相互の経済性という場所から、社会性が求められます。人と人とを繋ぐことが産業になる、イチパチのお客様の楽しみ

方を見てもそんな気がします。あるパソコン教室は、パソコンの上達だけを目指すのではなく、仲間と集うコミュニティを目指していて、こういった事業コンセプトが成功し250校にまで成長しています。コミュニティとしてのプラットフォームができたなら、次はここにうずもれているニーズをいかに探るかでしょうか。



Fun for Life

読み切り小説

暗証番号は
「1111」



安藤 博文

あんどろひろぶみ ● カスタマーセンターディレクター。
第7回パチンコ・パチスロ論文・作文コンクール
最優秀賞を受賞。パチンコホール情報誌ビデアに
「実践！クレーム錬金術」を連載中。

先

月、夫が他界した。
定年を迎えた日に不慮の事故、帰らぬ人となった。

「会社辞めたら、おまえの行きたい所に旅行しよう」。

朝、玄関で振り返りながら言った夫の最後の言葉。

新婚旅行はおろか、式すら挙げぬまま四十年近く連れ添ってきた。さして贅沢させてもらうわけでもなく、優しい言葉の一つもかけてもらえたわけでもなかった。子育てと日々の生活に追われ、いったい何が良くて一緒になったのか？ そんなことすら考える暇もなかった気がする。

それゆえ、家を出る前に夫の口から出た

言葉には驚かされたし、嬉しさが徐々にこみ上げてくる思いでいた。

鏡に映る疲れきった顔を眺めながら、約束を守ることなく去っていった夫のことを思い浮かべていた。

遺品を整理しているとパチンコの会員カードが出てきた。

思えば、休みの日には決まってパチンコに行く夫に、いつも小言をぶつけ不満の表情をあらわにしていた自分が悔やまれる。

私

はパチンコが大嫌いだった。夫の財布をいつも乏しくさせ、結局、一握りのお菓子しか持ち帰れない。そのくせ満足げな表情でいることが理解できなかったし、何が楽

しくて朝から晩まで台と向き合っているのか甚だ疑問だった。

でも、本当は休みの日くらいは自分の方を向いてもらいたいという想い。歳を重ねても、稚拙な態度でしか表せなかった。

カードとともに夫が書き続けていたパチンコ日記がある。

パチンコから帰るといつもその日の結果を書き残していた。

最初のページはカードの暗証番号が書かれている。書き残す必要すら感じない「1111」。

続けて、初めてパチンコをすることになったきっかけや、好きな機種の話、「貯玉」というシステムがあることがわかり、コツコツと貯めて行く様などが記されている。

日付の横には当日使った金額と貯玉数が必ず書かれていて、その日交換した菓子や雑貨と、何故か顔文字が記載されていた。年甲斐もなく顔文字を書いていたことに私は驚いたが

(' ▽ ')
＼ (^O^) /
(≥ ▽ ≤)

この3種類しかないことが逆に微笑ましく思えた。

記

録を読み続けて気付いたことがある。貯玉の累計が一度として減っていない。日を追うごとに増える一方。「又負けた」が口癖だったが、どうやらあれは嘘だったようだ。私に横取りされるとでも思ったのだろうか？気の毒に感じた半面、悲しさもよぎった。

来客を告げるベルが鳴った。

見知らぬ複数の男女だが、夫の死亡を最近知って急ぎ焼香に来てくれたようだ。各々が一言二言別れの言葉を告げ、焼香を終えたと長居をせず帰ろうとしていた。去り際に故人を思い出すように一人が話してきた。

「我々は、よくご主人と一緒にバチンコに行っ



た間柄なんです。ご主人の奥様への思いは我々の間でも評判でして、『女房が喜ぶんだ』と言って必ずお菓子などのお土産を持ち帰るようにしていました。負けた日はナケナシの小銭で我々から買い取るほどでしたから。

そうそう、結婚記念日に旅行をプレゼントすることを楽しみにしていました。以前から出た玉のほとんどを貯めていましたし、『女房、驚くだろうなあ』と嬉しそうな顔が印象的で……。本当に奥様思いの素晴らしい旦那様でした。」

予

想もしない夫の一面を知らされ、恥ずかしそうに振舞いながらその方達を見送った。ドアが閉まるより早くこらえていた涙があふれ出た。

お金がないのに通う姿。

鼻高々に持ち帰るお菓子。

私に向ける満足そうな表情。

記憶のどれもがやっと結びつく。いつも私を思ってくれていたのだ。抱きかかえた日記に涙がこぼれる。

濡れてにじんだ最終ページ、顔文字解説が目映る。

(' ▽ ')
ちよつと嬉しそうにしていた
両手をあげて喜んでいた
＼ (^O^) /
おいしいと感激していた
(≥ ▽ ≤)

「これは私の顔だったんだ」

静

寂の中、しばらくの間、涙が落ちる音だけが聞こえていた。

「おまえの行きたい所に旅行しよう」最後となったあの日の言葉。

あなたの言うとおりに私行ってみますね。

明日は11月11日。私たちの結婚記念日。

あなたのカードを持って私行ってきます。



CM第6弾は「ピーアークファクトリー」

TBS系列で放映中

とある町の工場でピーアークと仲間達がせっせと作っているのは、ピーアークが届けたいone of oneのFun for Life。一人ひとりに合った、オンラインのFun商品を、ご提供したいという思いを表現しました。



ピーアークはSON福島大会を応援します！

ピーくんチャリティーでも応援しているスペシャルオリンピックス日本の冬季大会が2012年2月、福島で開催されます。福島の復興とアスリートの健闘を願い、ピーアークは福島大会を応援します。ピーアーク各店での応援イベントや現地ボランティア派遣を予定しております。



6

クールビズ・サマータム実施
(6月1日~10月31日)

7

第28期定時株主総会(6月24日)
東北物産フェア
スタート
(7月1日)



with you サイトオープン
(7月12日)

CM第6弾
「ピーアークファクトリー」編
スタート(7月28日)

楽得システムデビュー
(7月29日)

GAMEピーアーク青井
ランドオープン
(8月1日) ↓ P 29



草加よさこいサンバ
フェスティバルに
ピーアーク連出場
(8月27~28日)



1951

昭和26年

PARK DREAM

今号の考案者

私には、もうすぐ4歳になる娘がいます。娘はいずれ小学生になり、社会の時間で「父親の職業」に興味をもつ事でしょう。

私たちは職業柄、子供を職場に連れて行ったり、日々頑張っている姿を見せる事は出来ませんが、この「ピーアーク博物館」があれば、子供に自分の足跡を見せてあげる事が出来ると考えました。「この仕事はパパの提案で実現したんだよ。」とか「これはパチンコ業界でピーアークしかやってないんだよ。」なんて説明しながら、一緒に行く事を想像しました。一通り説明して、最後に「パパすごいね!」って言って貰えたら、最高にうれしいです。

中村洋介(H17年入社)

編集後記

先々月、「ピーアークボランティア隊」として仙台の小学校を訪ねました。ブルーシートのかかった屋根、液状化でデコボコの車道を進む道中ではピーアーク縁日を喜んでもらえるか少し不安でしたが、子どもたちは皆、困難に負けないキラキラの笑顔を見せてくれ、時間いっぱいまで楽しんでくれました。さらに、8月のボランティア隊仙台訪問を覚えてくれていた子どもたちから、「この前も来てくれたよね、ピーくんでしょ?」と。遠く離れた仙台の地で絆が生まれていたことは何よりも嬉しい成功報酬でした。

営業再開を喜びエールをくださったお客様、支援物資に快く協力してくださった町の方々、東北物産フェアを通して繋がった東北の皆さん、with you活動を通してたくさんの絆が繋がった1年でした。来年2月には、福島で開催されるスペシャルオリンピックス日本の冬季大会を、with youプロジェクトとして、この絆のエールで応援します。皆様も是非、アスリートと福島の皆様の挑戦にご期待くださいませ。

<編集長 中川 祐子>

With you
サイトオープン
「あなたの笑顔が、が
んばる元気に」。みんな
の笑顔のために、ピー
アークが行ってきた活
動を紹介するサイトが
できました。


<http://www.p-ark.co.jp/park/>

節電実施風景



ボランティア情報

11

10

ゆるキャラ®さみっとin羽生に
ピーくん出場(11月26日~27日)

内定式
(10月24日)



P ARK DREAM



ピーアーク博物館

パチンコが日本の文化のひとつとして位置づけられるとともに、ピーアークの歴史が詰まった「ピーアーク博物館」が誕生。

ピーアークの歴史・挑戦・未来のFun for Lifeなど、ナビゲーターのピーくんが案内してくれます。ゼロからイチの歴史を振り返ったら、そこからまた新しいアイデアが生まれるかも…!?

ピーアーク
総合モバイルサイトに
アクセスしてね!



ピーアーク総合サイト

www.p-ark.co.jp

エンタメ原人  ピーアーク

ワタシたちの仕事は世の中を楽しくすること

Fun for Life

<http://www.p-ark.co.jp>